

教 育 研 究 業 績 書

令和 7 年 4 月 1 日

氏 名 今 西 香 寿 印

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
子ども学		健康・成長・運動・遊び
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ・子どもの遊び環境についての体験型学習	平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月	大阪千代田短期大学 幼児教育科「ゼミナールⅡ」（2 年次配当、通年、2 単位）において、学生が子ども達に発育発達面で、体験してほしいと考える遊びを発案し、富田林市にある大阪府営錦織公園管理事務所の協力のもと、遊びの出前講座の演習を行った。開催についての案内を大学や公園管理事務所のホームページや園内に掲示し、年 2 回開催をした。毎回 200 人近くの子供達が参加をしてくれ、学生達は、参加する子ども達と触れ合いながら、ぎこちない身体の動かし方をする子どもの様子を見ることができたり、参加してくれた子どもの保護者と話すことができるなど、学内では学べない体験ができたようであった。卒業をし、実際公園で行った遊びを保育現場でも取り入れているという話も聞いている。
・科目「健康Ⅰ」・「保育内容演習健康」「健康の指導法」における教育効果を高めるための取り組み	2014 年 4 月～現在に至る	大阪千代田短期大学 幼児教育科「健康Ⅰ」（2 年次配当、半期、1 単位）、和歌山信愛女子短期大学 保育科「保育内容演習（健康）」（1 年次配当、半期、1 単位）において、演習を行った。教科書のみの学びだけではなく、実際に外部講師として行っている幼稚園での子どもの発育発達の状況や子どもの怪我など、具体的に理解できるよう保育現場の事例を多くとり入れながら、また、保育現場の様子の動画を見せながら、授業に取り組んだ。保育現場の具体例は分かりやすく、授業を聞いていても楽しいというよいアンケート評価を得られている。また、グループワークをとり入れながら、子どもの健康についての学びを深めていった。
2 作成した教科書、教材 ・講義用教材『子どもが育つ運動あそび』株式会社みらい（共著）「再掲」	平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月	大阪千代田短期大学 幼児教育科「体育理論・体育実技」（2 年次配当、通年、2 単位）、「体育Ⅰ」「体育Ⅱ」（1 年次配当、半期、1 単位）において『子どもが育つ運動あそび』の教科書を使用している。学生が実習において活用することができるように指導案の作成の仕方を参考にしながら指導案を作成し、その指導案をもとに授業内で模擬保育を実践している。実践をしているため、教育実習や保育実習においてどのような改善点が必要か振り返ることができる。
・教科書『子どもの姿からはじめる領域・健康』（共著）「再掲」	令和年 9 月～現在に至る	和歌山信愛女子短期大学 保育科「保育内容演習（健康）」（1 年次配当、半期、1 単位）におい

今西 香寿

		て、『子どもの姿からはじめる領域・健康』の教科書を使用している。学生が目の前の子どもの姿を理解することができるように、各章のはじまりは事例から始まり、本文中もなるべく事例を盛り込んでいる。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ・大阪千代田短期大学による授業評価アンケート結果における評価 ・和歌山信愛女子短期大学による授業評価アンケート結果における評価	平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月 平成 30 年 4 月～現在に至る	大阪千代田短期大学の前後期授業アンケート結果（保育内容健康Ⅰ・体育Ⅰ・Ⅱ・体育理論・体育実技）をみると、すべての項目において平均を上回っている。特に、評価が高かったのは、声をはっきりしていききとりやすい、教え方が分かりやすい、学生の質疑応答に応じる姿勢があったという項目である。また、全体の満足度としても高い。 和歌山信愛女子短期大学の後期授業アンケートの結果（保育内容演習「健康」・「健康の指導法」）授業評価の結果として、「教員の言葉の聞き取りやすさ」は、5 段階評価において、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解が役立った」において、4 以上の高い評価であった。授業の内容について、「この授業は自分のためになる内容だった」においても 4 以上と良い評価を得られている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ・公益財団法人 日本レクリエーション協会主催 教員免許状更新講習 実技研修講師 ・大阪千代田短期大学生涯学習センター主催 保育士資格特例講座の講師 ・阪南市教育協議会主催 運動あそびについての講師 ・阪南市教育協議会主催 運動あそびについての講師 ・園内研修 講師	平成 27～令和元年, 3 年 8 月 平成 27 年 7 月 平成 28 年 1, 7 月 平成 29 年 1, 7 月 平成 30 年 1 月 平成 30 年 3 月 令和元年 11 月 令和 3 年 8, 3 月～現在に至る	「元気アップエクササイズ」「遊びが運動になる、運動が遊びになるプログラム体験」の実技研修の講師として、保育士・教員を対象に運動遊びの指導を行った。 保育士を対象に、幼稚園教員免許取得のための運動遊びの実技講習を行った。 阪南市立公立保育士・幼稚園教諭を対象に、「運動あそびの必要性・運動あそび」の実技指導を行った。 阪南市教育協議会にて、阪南市立公立保育士・幼稚園教諭を対象に、「共感を通して、子どもどうしの心が通い合う運動遊び」の実技指導を行った。 阪南市石田保育所にて、石田保育所に勤務する先生を対象に、保育実践指導、運動遊びを指導するうえでの留意点及び配慮など指導等をテーマに所内研修を行う。
5 その他		特になし
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許		

・中学校教諭 1 種免許 保健体育 ・高等学校教諭 2 種免許 保健体育 ・レクリエーションコーディネーター ④幼少年体育指導士 ⑤マスター子ども身体運動発達指導士	令和 8 年 3 月 令和 8 年 3 月 平成 17 年 3 月 平成 25 年 11 月 平成 27 年 4 月	平 7 中 1 第 2287 号（愛知県教育委員会） 平 7 高 1 第 2837 号（愛知県教育委員会） 203-1020（公益財団法人 日本レクリエーション協会公認） 第 13-0370 号（日本発育発達学会認定） 27MK-09-4K-16-0219（公益財団法人日本スポーツクラブ協会公認）
2 特許等 ① ②		特許事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 30 年 6 月	認定こども園大阪千代田短期大学附属幼稚園にて、「第 50 回全国保育団体合同研究集会 合研プレ企画 in かわちながの」にて、地域の子ども達を対象にふれあいゲームあそびを担当した。
4 その他 ・進路・就職委員長 ・実習委員長 ・学生部 副部長	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月	学生の進路・就職に関する相談や学生の就職活動の状況や内定報告などを学科会議や教授会で報告を行った。 実習に関する事務や授業内容、実習先とのトラブルの対応等、実習に関する取りまとめを行った。 学生が学生生活を充足できるように、自動車通学の申請手続き、体育祭や学園祭の運営やコロナ感染予防対策等、学生のことを考え、学生部の運営を部長と学生部の教職員と共に行った。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1 『シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・健康』	共著	2020年12月	株式会社みらい	子どもの運動発達と遊び（p 101～111）について執筆をした。乳児から幼児までの発育発達と、各年齢の発育発達に応じた遊びについて執筆した。 （監修者名）秋田喜代美・三宅茂夫 （編著者名）国土将平・上田恵子 （共著者名） <u>今西香寿</u> ・小寺玲音・高木悠哉・谷川友美・中川昌幸・西元直美・長谷秀揮・村田トオル・吉井英博・渡邊彩（216 ページ）
2 『子どもが育つ運動遊び 第2版』	共著	2022年4月	株式会社みらい	理論編では、運動あそびの指導計画の仕方、運動あそびの進め方・声のかけ方（P 11～15）について執筆した。実践編では、パラバルーン（p 63～70）の遊びの種類、2種類の遊びの紹介（p 59～60）、ジャンプ遊び（p 87～90）、短縄遊び（p 91～92）、大縄遊び（p 93～95）を執筆した。 （共著者名）倉真智子・大森宏一・ <u>今西香寿</u> ・奥野孝昭・岸本みさ子・杉原香澄・田中真紀・橋本麻里（理論編・パラバルーン・ジャンプ遊び・短縄遊び・大縄遊びは、田中真紀と共著）（97 ページ）
(学術論文)				
1 教育実践研究 「保育者養成校におけるシラバスにみられる運動遊びに関する指導内容」	単著	平成30年1月	大阪千代田短期大学紀要 第46号（p 103～p 113）	幼児期において楽しく身体を動かす経験は、心身の発育発達に大きな影響を及ぼすと言われている。子どもが楽しく身体を動かす経験をするためには保育者の役割が重要である。しかし、新人保育者は子どもの頃の豊富な遊び体験を十分してきていないように思われる。幼児に必要なと思われる遊びを指導していく力を身につけていくためには、保育者養成校における運動遊びに関するカリキュラムや授業が重要な役割をもつと考える。そこで、保育者養成校における運動遊びに関する指導内容の取り組みを調査した。
2 論文 「生後1年間における育児用品の使用に関する研究—乳児の運動発達の視点から—」 （査読付）	共著	令和元年3月	発育発達研究	生後1年間は生涯の中でも運動発達が最も著しい時期であり、その時期の歩行器の使用が、児のその後の発達に影響を及ぼす可能性が先行研究で指摘されている。しかし、歩行器以外の育児用品の使用状況は調査されていない。生後1年間における歩行器以外の育児用品の家庭での使用状況を調査し、歩行器より長い時間使用する育児用品を調査した。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
3 論文 「教育現場で行われている表現に関する実態調査と領域の内容に関する考察」	共著	令和2年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要 第61号 (p37~42)	(共著者名 カルマール良子・<u>今西香寿</u>) 表現力の基盤は人格形成がなされていく幼児期の経験が大きく影響し、表現方法を身につけるには、様々な体験や経験によって培われていく。保育現場において行事を行うことは子ども達にとって体験や経験の場でもあるが、表現の場でもある。しかし、行事における表現は子ども自身からの表現ではなく、保育者に「やらされている」「させられている」姿になっているのではないかと。そこで、保育現場の行事において保育者が 子どもに対し、何に気をつけ、またどのような表現の経験が必要かを明らかにするために保育者を対象にアンケート調査を行った。 (共著者名 <u>今西香寿</u>・野村真弘・種田葉子・石川裕子)
4 論文 「子どもの表現を育むための授業実践に関する考察」	共著	令和2年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要 第61号 (p43~49)	子どもにとって表現とはどのようなもので、なぜ、それを担う活動が必要なのか、そうした問題意識を抱き、かつ実践へと繋げていく ためには、まずは教育者としての「表現」にまつわる体験が必要条件であると考え、和歌山信愛女子短期大学における 2019 年度新設科目「子どもの表現」において音楽・身体・造形を総合的に取り扱う「体験」を着眼点とし、教育実践とした。この教育実践に基づき、本研究テーマを（１）本授業内で扱った内容が現場で活かされるものとして妥当なのか。（２）学生自身が本授業での体験をどのように受け止めているか。と設定し、対象学生へ「授業実践後」と「教育実習終了後」とでアンケート調査を行った。そして、得られた二つの回答結果の比較、考察を行った。 (共著者名 <u>今西香寿</u>・野村真弘・種田葉子・石川裕子)
5 論文 「子どもの表現に関する研究動向」	共著	令和3年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要 第62号 (p19~28)	人生を如何に創造力豊かに生きようとするかは、生まれてから過ごす環境に大きく関わってくる。特に0歳から6歳までは、人間を形成する重要な時期であり、発達過程も世界に共通している。ここで重要なのは、その発達段階に応じた適切な環境が整っているかどうかである。環境とは家庭や幼稚園・保育園等を指す。その環境で大人が年齢に応じた子どもの表現活動を適切な援助するために発達段階を分けて理解し

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
6 論文 「5 歳児の活動を通してみられる表現 - 運動遊び・造形遊びの事例から」	共著	2022年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要 第63 (p15~27)	ておく必要がある。そのため音楽表現、身体表現、描画表現について年齢に応じた子どもの活動についてまとめている。 (共著者名 <u>今西香寿</u>・井澤正憲・田原淑子) 幼少期にみられる表現は、身体や描画などで「発達と表現」として研究されてきた。人間は表現する生き物であり、太古から喜怒哀楽、生きている証や祈りを身体や造形などで豊かなイメージで私達に伝えてきた。その根源的な欲求は脈々と私たちに受け継がれ、人生を深く味わうために不可欠なものである。その土台は幼少期の「あそび」を通して積み重ねられ、その後の思考や生き方に大きく関わってくる。本稿は生活環境も大きく変化し、あそぶ場所も屋外より屋内が中心となった。実際の保育現場において運動遊びから出現する身体表現、粘土遊びによる造形表現について5歳児の表現の実態について記述している。 (共著者名 <u>今西香寿</u>・井澤正憲)